

県育成極早生温州「豊福早生」の特性

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

研究のねらい

温暖な条件下にある本県においては、極早生温州の栽培はカンキツ経営上有利である。しかし、現状の品種構成は、価格の低下する11月出荷の早生温州に片寄っている。このため、樹勢が強く、高品質で安定した収量が得られ、10月上旬から早期出荷の可能な品種の育成を行った。

研究の成果

1. 育成の経過

昭和59年に、大浦早生にパ・ソンプラウンの花粉を交配し、胚分離・培養を行って育成した珠心胚実生種。昭和61年から果樹研究所内および県内の適応試験地域で特性検定試験を実施し、個体N-1464を選抜した。

2. 品種の特性

(1) 樹性

樹姿は未結果期間ではやや立性であるが、結果期に入ると次第に開張する。樹勢は極早生温州のなかでは強い方に属する。枝梢はやや太くて長い。伸長は比較的旺盛であり、若木の間は刺を発生する。葉は宮本早生等より大きい。

(2) 結実性

生育初期の枝梢の伸長が旺盛なため、結実始めは他の極早生温州より1年程度遅れる傾向にあるが、結実期以降の着花状態は良好で連年結果性がある。

(3) 果実特性

1. 果実の大きさは宮本早生と同程度であり玉揃いはよい。果形は偏円で果面は滑らかである。着色は9月上旬頃より始まり10月上中旬には完全着色し、果皮色は濃い。じょうのう膜は宮本早生よりやや厚い傾向にあるが、果肉は柔軟である。
2. 果汁の糖度は比較的高く10月上旬頃には10～11度程度になる。クエン酸は比較的低く、10月上旬頃には1%程度となる。収穫は温暖な地域では9月下旬から可能であるが、10月上旬からが主体となる。

3. 栽培上の留意点

本種は比較的広い範囲で栽培可能とみられるが、早期出荷としての特性を発揮するには、温暖な地域に植栽することが必要である。糖度を高め、減酸を早くするには、土層は比較的深く、排水の良い日当たり良好な傾斜地での栽培が望ましい。

表 1 樹体と花

項目 系統	樹姿	樹冠の 大きさ	樹勢	春梢の形態				葉の形態			花器	
				長さ	径	節間長	刺の多少	面積	長さ	幅	花重	子房の大きさ
豊福早生	やや開	大	強 9.2	16.8	3.8	2.1	有 2.0	34.8	10.1	5.8	0.5	中 4.0
大浦早生	やや開	やや小	やや弱 7.2	10.9	3.4	1.7	無 0.0	23.7	8.3	4.7	0.5	中 3.8
宮本早生	中	やや小	弱 6.6	9.3	3.1	1.8	無 0.3	22.4	8.2	4.0	0.5	中 3.8

表 1 果実の形態

項目 系統	果実の 外観	果形 指数	果実 径	果実重	果皮10/7		果肉色 10/11	果面の 平滑度	果皮 厚	じょうの う障の硬 軟	着色始期	完着期
					着色	果皮色						
豊福早生	やや 偏円	135.1	5.94	81.9	8.1	8.3	9.1	2.0	2.8	やや軟	9月上	10月上中
大浦早生	やや 偏円	137.6	6.00	82.3	6.5	6.9	7.3	2.3	2.7	やや軟	9月中	10月中下
宮本早生	偏円	136.5	5.77	77.1	8.8	7.5	8.4	1.6	2.3	軟	9月上	10月上中

表 1 果実の品質

品種	採収年月日	果実重g	糖度	クエン酸	甘味比
豊福早生	H1.9.26	96.4	10.4	0.72	15.7
大浦早生	"	95.0	9.8	0.73	14.2
豊福早生	H2.10.8	104.0	11.6	0.68	18.8
大浦早生	"	112.3	9.6	0.87	13.4
豊福早生	H3.9.25	74.7	12.2	0.91	14.5
大浦早生	"	85.4	10.6	1.50	7.8
宮本早生	"	75.7	10.7	1.25	9.3
豊福早生	H4.9.23	95.3	10.4	0.94	12.3
大浦早生	"	78.3	9.8	1.27	8.3
宮本早生	"	78.3	10.0	1.28	8.3
豊福早生	H4.10.14	88.4	12.2	0.90	14.9
豊福早生	H5.10.8	88.3	10.4	1.04	11.1
大浦早生	"	106.0	9.6	1.08	9.8
宮本早生	"	104.4	9.6	1.13	9.6



写真1 豊福早生の樹姿



写真2 豊福早生の結実状態